

# 北海道 かわばたの風

7月号

KAKA's FACTORY

発行所：社会福祉法人愛篤福祉会

発行日：令和元年8月10日

住所：北海道夕張郡由仁町川端1002

電話：0123-85-2246

## 社福愛篤福祉会一五周年記 念式典によせて

管理者 太田 さとみ

KAKA, sFACTORYを北海道に造る事になったわけは、八年前の東日本大震災の原発がきっかけにでした。震災時、自宅に住めなくなった方、自主避難された方重い障害を抱え避難所に入ることも出来ず自家用車で過ごした方、親類を頼って身を寄せた方、それでも、皆さん一週間が限度でしたと聞きました。

震災後、施設を再開させた時、利用者の声、保護者の声を法人がアンケート用紙を配布し、家庭訪問をして聞いてくれました。皆さん声をそろえて、避難できる環境が欲しいと訴えられました。その要望を理事会がすぐに行動に移して下さり五年の歳月を要し、北海道に避難所を立ち上げました。40名の利用者が一同に避難できる環境を探す事とても難しく様々な物件を見て、迷ったの仕事をだっと思えます。私たちは時間が経つと忘れてしまいますが、東日本大震災の被災者です。

未だに終息を見ない原発が40キロ圏内にあるのです、あの揺れが再び起きた時、私たちは重い障害を持った子と路頭に迷います。その様な思いをさせたくない、法人は、避難所が欲しいとの要望を真摯に受け止めて、行動してくれました。私たちにとってありがたいことです。法人が避難所を北海道に造るといわれた時、主人は、迷っている私に「いざはいざにあらざ」だ、もしもの時に自分は年老いた両親と障がい者の両方は、守れないと思うので、子供と北海道へ行ってくれと私の背中を押してくれました。今後余震はないと言いつつ切れない中、避難所があるという事は、気持ちの上での安心要素です。安心があるだけでも私たちは次の事に進めます。

次の目標は、愛篤福祉会立ち上げ時からの願いでもあります「親亡き後の施設」に向けてです。法人愛篤福祉会のコンセプト「みんなしあわせに」です。障害を持った人もその方を支えている家族もすべての人が幸せにです。グループホームにずれ入れるだろうと思っただけでも「いざはいざにあらざ」なんです。

一五周年を迎え、愛篤福祉会は、通所作業を立ち上げ、まさかの災害時の為の避難所を設けてくれました。次につながる親亡き後の施設に皆さん力を合わせて夢を実現にしましょうよ、そのために、批評や中傷に話しをするのではなく、同じ法人にいる皆さんで、同じ方向を見て、助け合い、励ましあいましょう。

私たち一人一人が幸せになるために次の目標に向けて、気持ち一つにしましょう。どうぞよろしくお願い致します。

## 風だより

▼式典参加の為、梅雨明けすぐのいわきに行きました▼爽やかな北海道の空気にすっかり慣れていましたから福島空港に到着後の空気の重さを肌で感じ、しばらくこの地に滞在する事が少し憂うつになりました。年々暑さが強く継続する事が多くなっているように感じます。▼地球温暖化現象のため、世界規模で大変なことが起きている事もニュースで理解しているが現実何から始めればよいか分からない、もたもたしている取り返しがつかなくなるから、身近なことから冷房の設定温度を一度上げる事から始めようと思えました。





# KAKA's FACTORY × 工房阿列布 で観戦にいらしてきました。



腹が減っては観戦は出来ぬ!!  
びっくりドンキーにいきました。

## フレイボール



ナイス  
バッティング  
(0)



阿列布の皆さん北海道に来てくれてありがとうございました☆彡

次はだれが来てくれるかなあ??

北海道の良いところを沢山伝えたいです(0°)/  
KAKA's FACTORYは阿列布の皆さんを心よりお待ちしております。